149. 大腸検査における前処置 -第3報-

Evaluative Study of Preparation
for Colorectal Examination -The 3rd Report

(財) 神奈川県予防医学協会 ○昆布谷三恵子 ・ 徳田恭子 ・ 武井恒夫
(Mieko Kobuya) (Kyoko Tokuda) (Tsuneo Takei)
萩原明 ・ 青木誠孝
(Akira Hagiwara) (Shigetaka Aoki)
帝京大学溝の口病院 金子等 横浜市立大学病院 大木繁男
(Hitoshi Kaneko) (Shigeo Ohki)

【はじめに】 第2報で報告したように、塩類下剤の作用と水分摂取量について検討したところ、初回排便時間・平均排便回数という点ではP250mlB群が良好なものであるが、不眠の程度及び、残渣評価の結果ではP250mlA群が良好であった。そこで実際検査・診断を行う上で、残渣がどの程度影響してくるか、バリウム付着状態・診断上最も重要とされるFine Network Patternの描出程度を比較検討した。

大腸検査において、前処置は最も重要であり、大腸集団検診の大腸検査で受診者から、いかに効んで検査に協力してもらえるかが問題となる。そこで、当施設では受診者に検査についてきちんと知ってもらい、その上で検査に参加してもらうために、当施設看護婦より検査の目的と前処置の重要性について説明を行い、受診者への検査に対する理解と前処置の徹底を計っている。しかし一部の事業所では業務上の都合により、先方施設において検査の目的と前処置について説明を行い当施設で大腸検査を受診している。これら2つの群に前処置上差があるかを検討した。

【バリウム付着状態】 バリウム付着状態の基準は、適：バリウム付着状態も良好で、きちんと二重造影として撮られていて、なおかつ良好なFine Network Patternの描出の得られているもの。不適としてベタツキ：バリウムが厚く腸管に付着してベタのりになったもの。不良：腸管の一部に付着不良を認めたもの。又は、付着していても、腸管内水分等により、バリウムが薄められてしまっ付着不良となったもの。とした。腸管内水分についてみると、P200mlB群・P250mlA群・P250mlB群で少数例に認められた。

【Fine Network Patternの描出程度】 評価基準は、表-2下に示した。各腸管部位別にみると、下行結腸・横行結腸において高く、その描出程度も高いものとなっていた。平均描出率をみるとマグコロール125ml併用法で92.4%、マグコロールP併用法全体では、94.2%と高率を示し、それぞれの併用法では、P250mlA群で95.7%と最も高率で、その描出程度も各腸管のほぼ全体にFine Network Patternの描出を認めたものが31.5%と良好な値であった。

【結果】 以上のことから、P250mlA群が最も良いものとなり、第2報で検討した結果と一致していた。

【先方食事説明群と当施設食事説明群】 当施設では、撮り残しのない検査をするために、ルチン検査を励行しており、検査終了後、必ず担当医師・技師がその日のうちに、フィルムチェックを行い、前処置評価・診断における示現能評価を検討している。このX線評価表を用いて前処置評価を検討した。

(対象： 当施設・・・平成2年4月～10月まで 403名
先方施設・・・平成2年度分 142名)

【まとめ】 これら2つの群での前処置評価の結果は、表-3に示した通りであり、これらは同一前処置方法であっても、その方法や必要性についての理解度が異なったための結果と考える。前処置は大腸検査を行う上で最も重要である。大腸集団検診として大腸検査を行う為に、負担の軽い前処置で良好な結果が得られるか、その為に対象者に認識させるかが今後の大きな課題であり、更に検討していきたい。

まとめ

前処置として

1. マグコロールP250ml(A)群・ラキソベロン10ml併用法が、残渣評価及びバリウム付着・Fine Network Patternの描出能からみても良好であった。
2. 当施設食事説明群と先方施設食事説明群では、あきらかに後者の方に残渣を多く認め、腸管内水分等も多かった。

評価	当施設	先方施設
無	53.6	51.4
1)	40.9	36.6
2)	6.5	10.6
3)		1.4
粘液	6.1	31.8
腸管内水分	2.8	15.9

表-1 各前処置法におけるBa付着(%)

前処置方法	適	不適	
		不良	ベタツキ
マグコロール 125ml	97.8	2.2	0
マグコロールP 150ml	97.5	2.5	0
マグコロール-AP200ml(A)	97.8	0	2.2
マグコロール-AP200ml(B)	91.7	7.5	0.8
マグコロール-AP250ml(A)	97.7	1.5	0.8
マグコロール-AP250ml(B)	84.2	10.0	5.8

表-2 Fine Network Pattern
の描出率とその程度(平均)・

前処置方法	描出率	描出程度(描出:100%とした場合)		
		+	++	+++
マグコロール 125ml	92.4	39.7	48.8	11.5
マグコロールP 150ml	89.2	48.6	40.2	11.2
マグコロール-AP200ml(A)	94.9	26.7	58.8	14.5
マグコロール-AP200ml(B)	89.2	48.6	40.2	11.2
マグコロール-AP250ml(A)	95.7	24.4	44.1	31.5
マグコロール-AP250ml(B)	90.8	46.8	45.0	8.2

※各腸管部位別に Fine Network Pattern の描出を評価・平均

+: 腸管のほぼ半分(1/3以下)に認められる。
++: 腸管のほぼ半分(1/3～2/3)に認められる。
+++: 腸管のほぼ全体(2/3以上)に認められる。

注腸評価表			
検査理由	由	腸管より	腸管より
1. 腸管より	腸管より	腸管より	腸管より
2. 腸管より	腸管より	腸管より	腸管より
3. 腸管より	腸管より	腸管より	腸管より
4. その他	腸管より	腸管より	腸管より
内視鏡所見	Barium	%	ml
撮影方法	直接	間接	
空気量	適量	少	多
残留便程度	(1) 残便があるが、診断できる。		
	(2) あきらかに残便を認める。		
	(3) 残便が多く、診断しにくい。		
粘液	無	有	有
水分	無	有	有
Barium, ml	無	有	有
Fine Network Pattern	有	無	有
虫垂	有	無	有
回盲弁	有	無	有
ポリープ	有	無	有
写真撮影	有	無	有
上行・下行・横行	有	無	有
S状・直腸	有	無	有
総合写真評価	5 (理想的)	4 (可)	3 (不可)

表-3 注腸評価表

当施設食事説明群と先方施設食事説明群
残渣程度